

TRA-TRAVEL Δ 企画 2025（トラトラベル・デルタ企画） ～「国外⇄大阪⇄国内」の芸術動線の創造と交流の促進～

TRA-TRAVEL

■活動内容

令和7年度は、『レジデンスによる国内外の芸術動線創造』として「A. 大阪―タイ間の芸術動線」大阪レジデンシーアワード、「B. 大阪―国内芸術センター間の芸術動線」を行い、また新プログラムとして、これまでに構築したネットワークを元にした『海外企画の大阪リメイク』を実施しました。

■コンセプト・ねらい

「レジデンスによる国内外の芸術動線創造」に加えて、「海外企画の大阪リメイク」を実施することにより、国内外のアートセンターとの新たなジャンルでの協働を開拓し、同時代の多様な芸術を大阪で紹介。また、大阪で実施した企画を国内アートセンターに巡回させ、「国外⇄大阪⇄国内」という大阪起点のアートネットワークを活性化させ、文化芸術の有機的な輪を広げることを目的としました。

■活動実績

助成を受けて実施した事業は、アーティスト・イン・レジデンス（3件）、海外企画の大阪リメイク（4件）、計7プログラムです。

アーティストインレジデンス・プログラム

AIRΔ vol.15 パピモン・ロートラクン | Papimol Lotrakul 『To Create Is To Pass On』

バンコクを拠点に活動するアーティスト、パピモン・ロートラクンによる展覧会『To Create Is To Pass On』は、アーティスト・イン・レジデンス AIRΔ vol.15 における、3カ月にわたる大阪での滞在制作の成果展として実施しました。ロートラクンは、大阪に内在する〈モノづくり〉における“クリエイティビティ”、“職人技”、“イノベーション”に着目し、大阪での滞在制作を進めました。大阪滞在中、ロートラクンは〈つくる〉という行為そのものがたどる循環について考察しました。新しくなにかを生み出す行為は、必ず素材やエネルギーを要し、ときに何かを失う側面も伴います。創造と破壊は常に隣り合わせであり、いったん始まった創造のプロセスは連続的に展開されていきます。

本展で発表された作品は、藤田美術館に所蔵される幾重にも重なる茶碗箱から着想を得たものです。ロートラクンはその形式を再解釈し、大阪で採取した素材を混ぜた粘土を用いて、多層構造の箱を制作しました。各層には、素材の原点から環境への影響まで、創造のプロセスにおける段階が表現されています。時代ごとに受け継がれてきた〈モノづくり〉の在り方を見つめ直す契機となりました。



☑️展覧会概要

パピモン・ロートラクン

『To Create Is To Pass On』

会期：2025年12月13日～18日 14:00-19:00

会場：Super Studio Kitakagaya 1階 ギャラリー

入場：無料

☑️トークイベント概要

「人が創るものと考古学的な想像力」

(ゲスト：安芸早穂子)

日時：12月14日 18:00-19:30

会場：Super Studio Kitakagaya 1階 ギャラリー

入場：無料 通訳者：和田太洋



AIRΔvol.16 ソー・ユ・ノウエ | Soe Yu New 『アイデンティティと変容』

AIRΔvol.16では、2024年6月から信楽の陶芸の森で1年間のレジデンスプログラムに参加しているミャンマー人アーティスト、ソー・ユ・ノウエを大阪の「TRA-TRAVEL」に招聘し、レジデンスプログラムを実施しました。ノウエは日本滞在中、訪れた場所からインスピレーションを得て、身体を精神の宿る家として捉える概念を軸に、自己を象徴する彫刻作品を制作しました。内臓や骨格といった身体のモチーフを植物的な様相へと変化させる彼女の作品は、聖なる空間と女性のアイデンティティをテーマとしています。

トークイベントでは、彼女が作品を通して探求しているテーマや、各プロジェクトで生じる変容について発表を行いました。ミャンマーに移住した中国系三世であるノウエは、アニミズム的な信仰や民間伝承から影響を受け、制作の根源となる思想を形成してきました。本イベントは、彼女が日本での滞在を通じて受けた影響について理解を深める機会となりました。また、本レジデンスでは大阪の寺社仏閣などでフィールドワークも実施しました。彼女の作品や体験に触れることを通じて、アジアの風土や人々の営みの中で醸成されてきたアイデンティティとその変容について考察する機会となりました。



☑️トークイベント概要

ソー・ユ・ノウエ 『アイデンティティと変容』

会期：2025年9月15日（月祝）16:00-17:30

会場：SUCHSIZE

料金：無料

通訳者：和田太洋



AIRΔ vol.17 アティッタヤポーン・センポー | Atittayaporn Saenpo 『田んぼとバッタ〜ソムタムをつくりながら〜』

AIRΔ vol.17 では、2025 年 10 月から国際芸術センター青森のアーティスト・イン・レジデンス プログラム 2025「CAMP」に参加しているタイ人アーティスト、アティッタヤポーン・センポーを大阪に招聘し、リサーチおよび発表を行うショートレジデンスプログラムを実施しました。

センポーは、タイのイサーン地方（東北地方）を拠点に、風刺的なアプローチを用いながら社会の規範を問い、見過ごされがちな問題に光をあてることを目的として、マルチメディア・インスタレーション、ビデオアート、パフォーマンス、ニューメディアアート、彫刻、写真など多様な形式で制作活動を行っています。

本ワークショップイベント『田んぼとバッタ〜ソムタムをつくりながら〜』では、タイのソムタム（パパイヤサラダ）を参加者とともに調理しながら、センポーが継続的に行っている「バッタ」に関するリサーチについて共有しました。また、日本で暮らすイサーン出身のタイ人労働者の生活や、労働後に田んぼで食材を採集する様子などについても紹介しました。バッタという存在を手がかりに、各地域に根づく営みや、そこから育まれる文化・風習・美意識について理解を深める機会となりました。



☑ワークショップイベント概要

アティッタヤポーン・センポー

『田んぼとバッタ〜ソムタムをつくりながら〜』

会期：2025 年 11 月 23 日（日）11 時-13 時半

会場：KITSUTSUKI

料金：無料（1 ドリンクオーダー制・投げ銭歓迎）

通訳者：エム タニタヤー



海外企画の大阪リメイク

TRA-PLAY vol.1 with AiRViNe 「ベトナム・アフタヌーンティー：In-Betweenness」



本ワークショップは、ハノイのアートハブ AiRViNe（Artist-in-Residence Vietnam Network）によるシリーズ「Nature on the Roof」をもとに、大阪版としてリメイクし実施しました。「Nature on the Roof」は、ハノイの放置された屋上住宅にアーティストを招き、その空間や近隣住民との対話を通じて制作を行うプロジェクトであり、レジヤをゲリラ的な実践として再構築する試みとして展開されてきたものです。その発想の背景には、ベトナムの「trà đã vỉa hè（歩道のアイスティー）」の文化があります。これは茶道のような格式張った儀礼に対し、より気軽で共同的なカウンターカルチャーとして生まれたものであり、お茶を飲む行為を身近で柔軟かつ共有可能な文化へと変容させています。輸入された習慣を現地の状況に応じて変化させるベトナムの人々の姿勢——規則を緩め、完璧さを手放し、そこにある可能性を受け入れる——が本企画の基盤となっています。

大阪では、その精神を踏まえ「ベトナム・アフタヌーンティー」を実施しました。

また、イベント内では「In-Betweenness（間にあること）」と題した公開ディスカッションを行い、ベトナムのアーティストやアート団体が、必要性や文脈に応じてアーティスト、オーガナイザー、キュレーター、インスティテューションといった役割を横断的に担う在り方について考察しました。

◆TRA-PLAY vol.1 with AiRViNe 「ベトナム・アフタヌーンティー：In-Betweenness」

日時 | 8月16日(土) 16:00-19:00 (入出場自由)

会場 | イチノジュウニのヨン

参加費 | 無料 (1ドリンク制)

主催 | TRA-TRAVEL

共催 | AiRViNe

協力 | C-index

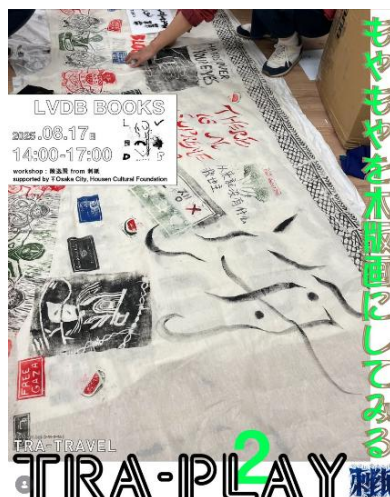
助成 | 大阪市、芳泉文化財団



TRA-PLAY vol.2 with Prickly Paper (刺紙) 「もやもやを木版画にしてみる」

中国・広州を拠点に活動するアーティスト・コレクティブ「刺紙」から、陳逸飛 (チェン・イーフェイ) と通訳兼協力者として enno/Li Yinong を招聘し、社会を語る術としての木版画をワークショップ形式で実践しました。

刺紙の木版画のプロセスを通じて、その活動や背景にある中国の社会状況への理解を深めるとともに、表現手法としての木版画がコミュニケーションツールとしてどのように機能しているのか、その社会的な可能性について参加者同士で意見交換を行いました。家庭や職場、SNS、実社会のなかで日々感じている小さな違和感を出発点に、それぞれの記憶に残る感覚を木版画として表現しました。



◆TRA-PLAY vol.2 with Prickly Paper (刺紙) 「もやもやを木版画にしてみる」

日時 | 8月17日(日) 14:00-17:00 (開場は15分前より)

会場 | LVDB BOOKS (大阪府大阪市東住吉区田辺3丁目9-11)

参加費 | 無料

定員 | 10名 (要予約)

対象 | 9歳以上 (9歳未満は保護者同伴)

主催 | TRA-TRAVEL

共催 | 刺紙

協力 | enno (Li Yinong)、冬木遼太郎

通訳 | enno

助成 | 大阪市、芳泉文化財団

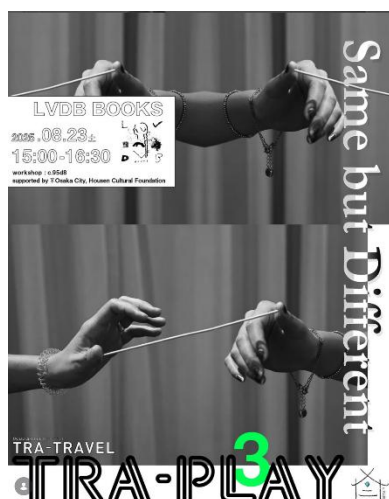


ワークショップ3 with c.95d8 「Same but Different」

香港を拠点に活動するアーティスト・コレクティブ「c.95d8」を招聘し、パフォーマンスおよびワークショップを実施しました。c.95d8は、障害をもつ人々の経験を基盤とし、障害を創造的な資源かつ熟考に値する主題として捉え、これまでパフォーマンスやワークショップを展開してきました。また、c.95d8が運営する「Crip Art Residency」では、障害のあるアーティストの受け入れを行ってきました。大阪で実施した本イベントでは、c.95d8のこれまでの活動から育まれた「身体の差異と人々のあいだに流れる時間との関係」を探るとともに、「自分自身、他者、そしてそれらの関わりを形づくるもの」との繊細な相互作用に着目したワークショップおよびパフォーマンスを実施しました。



「Crip※」という言葉には、障害者としての誇りや文化を積極的に受け入れる姿勢が込められています。



◆ワークショップ3 with c.95d8 「Same but Different」

日時 | 8月23日(土) 15:00-16:30

会場 | LVDB BOOKS

参加費 | 無料(投げ銭)

定員 | 10名 主催 | TRA-TRAVEL

共催 | c.95d8

助成 | 大阪市、芳泉文化財団

TRA-PLAY vol.4 with LIR 「ノンクロンしながら作品を語ってみる」



TRA-PLAY vol.4では、ジョグジャカルタのキュレーター・コレクティブ『LIR.』を招聘し、同地で行われているプロジェクトを大阪版として翻案し、トークおよびポートフォリオレビューを実施しました。LIR.は、インドネシア・ジョグジャカルタで2011年に設立されたキュレーター・コレクティブです。国際的な展覧会やコラボレーションのほか、教育プラットフォームの運営などを行い、「地域の知・記憶・歴史を世代を超えて伝えていく」ことに関心を持ちながら活動を展開しています。

本ワークショップでは、LIR.の共同設立者でありアーティストのディト・ユウォノを迎え、インドネシアの文化的な交流スタイルである「ノンクロン」——ゆるやかに集い、時間や会話を共有する——を取り入れながら、参加アーティストを対象とした作品レビューを実施しました。インドネシアで活躍するキュレーターから直接助言を受けることで、参加者が国際的な文脈の中で自身の作品や制作を見つめ直す契機となりました。

◆TRA-PLAY vol.4 with LIR 「ノンクロンしながら作品を語ってみる」

日時 | 11月12日(水) 19:00-21:00 (開場は15分前より) 会場 | SSK (Super Studio Kitakagaya)

参加費 | 無料 主催 | TRA-TRAVEL 共催 | LIR. 助成 | 大阪市、芳泉文化財団



■成果・効果

本事業は、独自の三者間マッチングシステム「 Δ (デルタ)」モデルを基軸とし、大阪を起点とした持続可能な国際芸術動線の構築に取り組み、当初の目的を達成したと考える。

アーティスト・イン・レジデンス、海外企画の大阪リメイクという2つの柱を相互に連動させることで、「国外⇄大阪⇄国内」の往還的な芸術交流を実現した。海外アーティストの招聘による滞在制作、国外で実施された企画の大阪版への翻案、国内映像作品の上映機会の創出を通じて、多角的な国際交流の場を形成した。また、本事業は会場ごとの特性を活かしたプログラム運営を行った。その結果、大規模集客ではなく、各会場における参加者同士の対話や交流を重視した、密度の高い文化体験の創出につながった。

助成金の活用により、「出演料」「作品借料」「設営費」等の充実に図られ、各プログラムの質の向上を実現した。加えて、通訳・翻訳体制の整備によりバイリンガルでの発信が可能となり、海外アーティストとの円滑な協働と国際的な情報発信の強化につながった。これにより、大阪発のアートプロジェクトを国外へ広く周知し、国際的なネットワークの活性化に寄与したと考える。

さらに、「海外企画の大阪リメイク」を実施したことにより、大阪市内の多様な文化拠点を活用した新たな発信の機会を創出した。これらの取り組みは、大阪の文化資源を再評価し、その魅力を引き出す契機となり、大阪の文化的発信力の向上に一定の寄与を果たした。

■今後の展開

今後の活動において TRA-TRAVEL は、アーティスト・イン・レジデンスによる国内外の芸術動線の構築を継続するとともに、企画の巡回や共同実施を通じて、海外組織との協働をさらに発展させていく。2025年度に実施した「海外企画の大阪リメイク」および、本助成の対象外事業である「国内映像作品の誘致」の成果を踏まえ、次年度以降は「海外映像作品の誘致」を新たな試みとして導入する。これにより、アーティストの招聘にとどまらず、先駆的な企画そのものを大阪へ導入する体制を強化する。今後はこれらの成果を大阪発のキュレーション企画として再構築し、国内外のアートセンターへ巡回させることで、「国外⇄大阪⇄国内」というネットワークを活用した国際的な発信の拡充を図る。

本取り組みを通じて、国内外のアートスペース・センターとの協力関係を深化させるとともに、大阪市内の多様な地域・施設との連携を強化し、市民が日常的に国際芸術に触れる機会の創出を目指す。これらの活動を積み重ねることで、大阪における国際的な芸術交流の基盤形成に寄与していく。